

高山萌美 ゼミ論テーマ「ドラム学習」

私は「山野楽器」という音楽教室に通って、ドラムのレッスンを受けている。ドラムを始めてから思ったことは、ドラムは練習が困難な楽器であるということだ。まず楽器自体が大きく、家に置くスペースがない。置けたとしても音がうるさく、振動もして、叩くとかなりの近所迷惑になってしまう。そのような問題を抱えることなくドラムセットを家に置いて練習ができる人もいるが、一般にドラム演奏者はどのようにドラムを練習しているのだろうか。そこでドラマーの練習事情を解明すべく、ドラマーの集まるサイトや掲示板、コミュニティに書きこまれている内容を参考に調査をした。また、実際に知り合いのドラマーから聞いた情報や、自分が今までドラムを練習してきて体験したことを参考に、本論をまとめた。

●まずドラム（ドラムセット）という楽器について説明したい。

ウィキペディアによるとドラムセットとは、「大小様々なドラムやシンバル等の打楽器を一人の演奏者が演奏可能な配置にまとめたもの。通常椅子に腰かけて演奏する。ドラムセットに組み込まれる打楽器の種類や数は、奏者の好み・音楽的方向性・経済的事情等により多種多様である。」と書かれている。通常この写真のようにセットされる。

<図省略>

このようなセットが基本であり、1バスドラム、2フロアタム、3スネアドラム、4ハイタム（右）ロータム（左）5ハイハット、6クラッシュシンバル（右）ライドシンバル（左）で組み合わせられたセットである。ドラムを叩くにはこのドラムセットとスティックが必要である。

フロアタム、バスドラム、ロータム、ハイタムの太鼓はそれぞれ大きさが違い、大きくなるほど低い音が出る。

またクラッシュシンバル、ライドシンバルのシンバルは大きさと硬さが違い、これも大きくなるほど低い音が出る。この写真のセットが基本的なセットであるが、これに太鼓とシンバルを減らしたり増やしたりして、好みのドラムセットにすることができる。

●日本でドラムをやっている人はどのくらいいるのだろうか。

大手のバンドメンバー募集サイト「with9」でドラマーの募集記事を検索したところ32941件ヒットした。他のパートを見てみると、エレキギターが27156件、エレキベースが28079件、ボーカルが19651件であった。また加入希望の記事を検索したところ、ドラムが3598件、エレキギターが6163件、エレキベースが4646件、ボーカルが9165件であった。

また「oursounds」というバンドメンバー募集のサイトでは、ドラムの募集記事が14506件、エレキギターが12447件、エレキベースが12235件、ボーカルが8252件であった。

加入希望の記事では、ドラムが 1669 件、エレキギターが 3520 件、エレキベースが 2191 件、ボーカルが 5579 件であった。(2011 年 1 月 16 日時点) どちらのサイトでもドラムの募集記事が一番多く、ドラムの加入希望記事が一番少ない。エレキギター、エレキベース、ボーカルの人口よりもドラムを演奏する人の人口が少ないと言える。バンドの主要パートであるギター、ベース、ボーカル、ドラムのパートに絞った話ではあるが、この中でドラムが一番少ないのは何故だろうか。もともとドラム以外のパートに興味があってその楽器を始めた人もいるだろうが、バンドで楽器を演奏してみたい、と思った時にドラムではなく他のパートを選ぶ人が多いという事も言えるだろう。では何故ドラムを選ばないのだろうか。考えられる理由として、

- ・一番後ろで演奏するので目立たない、失敗すると一番目立つ、両手両足を使うのが難しそう、などといった演奏面での理由。

- ・ドラムセットを家に置いて練習ができない、ドラムセットの値段が高い(と思われている)、家に練習場所がないといった練習面での理由。

といったことが考えられる。特に後者の理由は、多くのドラマーを悩ませる問題である。

ドラムは家で手軽に練習できない楽器であり、ギターやベースと比べ、手のつけにくい楽器と思われるため、演奏人口も少ないのではないだろうか。

●具体的に、家でドラムを練習しようとするるとどのような問題が発生してくるのだろうか。

まず、①ドラムセットを置けるだけのスペースが家がない。日本は特に狭い住宅事情であるため、ドラムセットを置くのは困難である。②ドラムセットの値段が高い。ドラムを演奏しない人 10 人にドラムセットは高いと思うか聞いてみたところ、全員高そうだと回答した。しかし、決して手を伸ばせない値段ではない。ドラムセットは値段が高く、手を出せない楽器だと思って諦めてしまう人もいるかもしれないが、音の質を気にしなければ 3 万円～4 万円でセットが買える。いいものを買おうとすると 10 万円台のものから 20 万円台、30 万円台・・・100 万円代のものまである。最近は安くていいものが増えてきているということもあり、他の楽器と比べてドラムの値段が高いというものではないので、この問題に関しては解決できる。③音と振動が大きい。これがドラマーを悩ませる一番の問題である。ドラムセットを使うにしろ使わないにしろ、ドラムを練習する際には音と振動の大きさに配慮しなければならない。ドラムを練習していて家族や、近所の住民から苦情が来るということは多くのドラマーが経験している。

●ではドラマーはどうやってドラムを練習しているのだろうか。ここからはドラマーの練習事情について詳しく調査していきたい。

まず、自宅にドラムセットが置ける人はそれで練習ができる。しかしそのような人は、

- ・田舎に住んでいて周りに家がない、家の広さに余裕がある、防音された住宅である、家族に迷惑がかからない時間で練習ができる、などといった条件でないとできないため、多くのドラマーは家でセットを使った練習は困難である。ではドラムセットが置けない人

はどうしているかという、ドラムセットの代わりとなるものを使って練習している。

その代わりとなるものとは、本、雑誌、クッション、枕、布団、電子ドラム、練習パッド、自分の太股などである。具体的にどう使って練習しているのだろうか。いくつか例を挙げたいと思う。

- ・椅子に座り、自分の太股をスティックで叩く。この練習は、自分で叩いている強さが分かり、左右均等の強さで叩ける練習になる。

- ・足を組んで椅子に座り、上に組んだ方の靴の爪先をスティックのチップ（右図参照）で叩く。目標が狭いので、同じ位置で叩くコントロールの練習によい。

- ・スティックの振り上げ。手首をしっかり使って素早く振り上げる練習。

- ・右足の練習で、踵を地面につけたまま爪先だけを上下に動かす。（ヒールダウンという踏み方で、小さい音量で演奏する時に使う。）逆に、爪先をつけたまま、踵を上下に動かす。爪先を床につけ、踵をあげた状態から、爪先を床から離して踏む。（ヒールアップという奏法で、実際のペダルを使用した時と同じ動作になる。）

- ・スティックを使わず、手を使って練習。机を叩いたり、太股を叩いたりする。

- ・指の握りだけでスティックを振る。親指でスティックを挟んで固定し、人差し指だけでスティックを動かす。

- ・椅子に座り、座布団を太股に乗せてスネアの代わりにする。机に本を開いて置いて、タムとハイハットの代わりにする。右横に椅子を置き、フロアタムの代わりにする。

- ・電話帳を重ねて布ガムテープでぐるぐる巻きにしたものを叩く（ガムテープに穴が開き、電話帳が削れるのを目標にして叩く）

- ・布団を敷いてその上に厚めのゴム（ホームセンターで売っているもの）を敷き、フットペダルをその上において足の練習。

- ・お風呂マット、板、タイルカーペットなどを組み合わせて敷いて、その上で練習。（床から伝わる振動を防ぐ）

- ・練習パッドを購入して練習。

ラバー製	メッシュ製	膝に装着して使用	足の練習パッド
------	-------	----------	---------

<図省略>

5145 円	9345 円	1730 円	6300 円
--------	--------	--------	--------

ジェル状	持ち歩けるコンパクトなパッド
------	----------------

<図省略>

5712 円	2625 円
--------	--------

練習パッドにはこれらのように様々な種類がある。それぞれ消音性や叩き心地、振動の伝わり方などが違う。

・電子ドラムを使って練習。電子ドラムとは、電子的なプロセスで音を出すドラムのことで、エレクトロニックドラム通称エレドラといわれている。アナログシンセを鍵盤の代わりに、パッドを叩いて音を出すといったもので、ゴムで出来たパッドやメッシュのヘッドが張ってある。叩くことによって生じた振動をセンサーでキャッチし、その電気信号を音源モジュールへ送り音源に割り振られたサンプリング音などをヘッドフォンで聞いたり、アンプやスピーカーに伝えて電子的に音を出すドラムである。電子ドラムとはいえ、アパートやマンションの場合、その叩く音や振動が隣の部屋に響く可能性は十分ある。一軒家であっても、一緒に住んでいる人に迷惑になることもある。生のドラムセットよりはもちろん消音であるが、電子ドラムの場合も、置くスペースはもちろん、叩いても迷惑にならない環境であるかをしっかり考慮してから購入するべきである。

<図省略>

29800 円

79800 円

306000 円

<図省略>

567000 円

8500 円

このように、電子ドラムは 2 万円台から 50 万円台のものまである。叩き心地や音の質、機能によって値段が違ってくる。

●家で練習する場合、これらのような練習方でドラマーたちは音や振動を抑える工夫をして練習しているのである。家で練習する以外に、スタジオで練習するという人も多い。ドラムセットが置いてあるスタジオに行き、生のドラムセットを叩いて練習するのである。

大体のスタジオは、バンド練習と個人練習で料金が設定されており、個人練習でスタジオに入る方が安い。ドラムを練習したい場合は、個人練習でスタジオに入る。スタジオによって料金は違うが、個人練習だと 1 時間 400 円～800 円でスタジオに入れるスタジオが多い。スタジオでの練習は

- ・お金がかかる
 - ・予約が埋まっていて好きな時間に予約が取れない（バンド練習の予約は 1 カ月前から受け付けるのに対し、個人練習の予約は、前日か当日からの受け付けというスタジオが多い。）
 - ・家の近くにスタジオが無い人は不便である
- という点が問題ではあるが、スタジオに入れば、生のドラムの感触をつかめ、音量を気

にせず思い切り叩くことができる。

家でもスタジオでも練習をするという人もいれば、スタジオにはいかないで家だけで練習する人、逆に家で練習しないでスタジオだけで練習する人など、さまざまである。

ドラムセットや練習台を使わずに、映像やDVDを観てドラム学んだり、イメージトレーニングやエアドラムで練習したりといった方法もある。

●次にドラムレッスンについて紹介したい。私はこれまで上野楽器、島村楽器、山野楽器のドラム教室に通ったことがある。ドラムレッスンはグループレッスンと個人レッスンとに分けられている。私はどれもグループレッスンに通っていた。人数は5人前後。一回1時間のレッスンで月に3回～4回レッスンがある。月謝は9000円～12000円程度である。

レッスンをする場所は防音室で、上野楽器ではドラムセットが4セットと練習パッドのセットが4セット置いてあった。島村楽器と山野楽器ではドラムセットが1セットと練習パッドのセットが4セット置いてある部屋でレッスンが行われた。レッスンの内容はというと、上野楽器では練習用の本が用意され（購入する）、それに沿ってレッスンをすすめていった。また、先生の選んだ曲の楽譜を渡され、それを演奏するという練習も行った。練習用の本で、基礎的な叩き方の練習をし、先生の選ぶ曲で、曲に合わせて練習するというレッスンの内容だった。島村楽器でも、基礎練習と曲練習といった内容ではあったが、基礎練習は本ではなく先生が一人一人に合わせて選んだ内容のもので、プリントを使って練習した。曲は自分で好きなものを選んで練習した。山野楽器では、練習用の本は購入するものの、それは使わず、先生が作ったカリキュラムに沿って基礎練習と曲練習を行うという内容である。どの教室でもそうであるが、一人ひとり順番が回ってきて、先生に見てもらい、アドバイスをもらうといった形である。次のレッスンまでに宿題が出る、というよりは、自分のペースで次回までに練習してくるといった形である。お金はかかるが、プロの人に見てもらい、的確なアドバイスをもらえるということと、他の人から刺激を受けることができるという理由で、私はレッスンに通っている。

●また、「ドラムクリニック」というものでプロのドラマーからドラムを学ぶこともできる。ドラムクリニックというのは、プロのドラマーが実演や体験談を混ぜてドラムの解説を行ったり、個別の質問に答えたり、希望者は自分のプレイを実際に見せてアドバイスを貰ったりできるというものである。ドラムが叩けない人でも、質疑のやりとりを聞いたり、プロの演奏を見て楽しむだけでも参加できる。LUNA SEAのドラマー「真矢」や、BOOWYのドラマー「高橋まこと」といった有名なドラマーもドラムクリニックを行ったことがある。そのため、ドラマーでなくても、ファンだからという理由でドラムクリニックに参加する人もいるようだ。技術を解説してくれたり、ソロを見せてくれたり、ドラムプレイを間近で見ることができたりと、ファンにはたまらない要素が、ドラムクリニックにはある。具体的に、BOOWYのドラマー、「高橋まこと」のドラムクリニックの様子を紹介する。会場は、ドラムセットを囲むように椅子が並べられ、参加者が至近距離で体験できるレイアウトであった。事前に参加者が記入した質問カードの内容を中心にクリニック

は進行された。内容はこのようであった。

・「どうしたらまことさんのようなスネアの音が出るのでしょうか？できれば B・BLUE を叩いていただきながら解説を！」という質問に答え、8ビートを披露。

・「今使っているのはこのスネア！」「みんな近づいて見てみて」と声をかけ、参加者をさらにドラムセットの周りに集めての解説。

・スネアの厚いシェルの重量感を参加の人達に体感してもらおうと、スネアを参加者に受け渡す。

・「どうすれば正確で早いビートを刻めるか？」の質問には、質問者を間近に呼んで解説。テクニックが必要なことは大前提のうえで、まずは「無駄な力を入れない」こと、そして「リズム感を身につけるために、歩いている時でもリズム感を感じる方法」などを伝授。さらに「上達したいのであれば、自分が置かれている現状をしっかりと把握し、そこからどうなりたいかという目標をハッキリと持っていないと上手くはならない」と気持ちの持ち方まで、経験に裏付けられた深い話しを語る。

・「ホンキー・トンキー・クレイジー」「BAD・FEELING」でのリズムのノリかたについてなど、目の前でプレイしながら、丁寧な解説が続く

・最後となった質問では「是非でっかい声のカウントで JUSTY を聴かせてください」といった、質問ならぬ”突然のリクエスト”に応え、その流れから「じゃもう一曲！」と「IMAGE DOWN」を更に大きなカウントと共に披露。

・最後は圧巻のドラムソロで終了

計 90 分のドラムクリニックであった。さらに最後に、高橋まことの DVD を購入した人に直筆のサインをし、ツーショットの撮影会も行った。

●ここからは私の今までのドラム練習について述べたいと思う。

私は家族で一軒家に住んでいた時は電子ドラムを 2 階の自分の部屋に置いて練習をしていた。しかし、叩く音や振動で家族に迷惑がられることは何度もあった。特に 2 階に置いていたため、足を踏む時の振動が下の階に伝わっていた。しかし生のドラムセットを叩かなくても電子ドラムの練習で十分だと感じていたため、スタジオに行って練習したことはなかった。練習は主にドラムレッスンでやっている内容や、たまにバンドを組んで、好きな曲をコピーして練習していた。一人暮らしを始めてアパートに暮らし始めてからは、電子ドラムを置けない環境になった。最初のうちは置いていたのだが、すぐに苦情が来たため、置くことはできなくなった。木造のアパートだったため、電子ドラム以外で練習しようとしても、音や振動が伝わりやすく、思い通りに練習ができなかった。そのため、スタジオに行って練習するようになった。しかし、スタジオに行くにもお金がかかるため、頻繁に練習することはできなかった。電子ドラムを使えないとなると、家での練習は、かなり地味なものになってしまうので、なかなかやる気が出ず、スタジオでしか練習しなくなった。だが、スタジオでの練習はやはり時間とお金がかかるので、家で練習できるようにしようとしているところである。今でも練習は主にレッスンでやっている内容と、バンド

でやっている曲である。

●バンドサークルやクラブに入っていて、学校や施設を使って無料で練習できたり、好きな時間に練習できたりという人もいるだろう。練習環境は人それぞれであるが、工夫次第ではいつでも、どこでも練習できるのである。キーボードやギターといった楽器は楽器自体が無ければ練習が困難であるが、ドラムは楽器自体が無くても練習ができる。歩いている時でも、電車の中でも、テレビを見ている時でも、手さえあればリズムを刻むことはできる。一見練習しにくい楽器であるようだが、そう考えると一番手軽に練習ができる楽器なのかもしれない。

参考文献

電子ドラムについて

<http://www.drum-drum-drum.com/ele-drum/cont01.html>

ドラムセット

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%A0%E3%82%BB%E3%83%83%E3%83%88>

with 9

<http://www.with9.com/>

oursounds

<http://mb.oursounds.net/>

LUNA SEA、BOOWY とも 80 年代の日本のロックバンド。文中に出てくる、B・BLUE、ホンキー・トンキー・クレイジー、BAD・FEELING、JUSTY、IMAGEDOWN は BOOWY の楽曲。